

「冬休みに関するアンケート調査」を実施！

物価高騰や円安の影響が冬休みの行動を抑制！
ただし、来年のイメージはやや前向きに？！

株式会社明治安田総合研究所（社長 神田 智尚）は、冬休みを前に「冬休みに関するアンケート調査」を実施しました。主要ポイントは以下のとおりです。

主要ポイント

4

ページ

1. 冬休みの過ごし方

- ◆ 今年の冬休みの日数は、平均で「8.1 日」
- ◆ ワクチン接種の進展などで外出に安心感が生まれるも、「自宅でゆっくり」過ごす派が多数！
- ◆ 行きたくても行けない？！海外旅行断念派は、円安やコロナ規制を敬遠！

エコノミスト前田和孝が「冬休みの過ごし方」について分析！

7

ページ

2. 冬のボーナス

- ◆ 冬のボーナスの平均金額は「594,719 円」で、9 割近くが「昨年と同程度」との結果に！
- ◆ ボーナスの使い道は、「預貯金」が約 7 割とダントツ！

エコノミスト前田和孝が「冬のボーナス」について分析！

9

ページ

3. 冬休みに使う金額

- ◆ 冬休みに使う予定の平均金額は「40,205 円」と、昨年から大きく変わらず！
- ◆ ただし、約 2 割が昨年より冬休みに使う金額を「減らす予定」と回答。そのうち、約半数は「物価高騰により家計が厳しくなった」ことを理由に挙げる！

10

ページ

4. お年玉

- ◆ 今年渡す一人当たりの「お年玉」の平均金額は「3,858 円」で、多くの人が昨年と「変わらない予定」と回答！
- ◆ 昨年より一人当たりの「お年玉」の金額を「減らす予定」と回答した人のうち、約 4 割が「物価高騰により家計が厳しくなった」ことを理由に挙げる！

エコノミスト前田和孝が「冬休みに使う金額」・「お年玉」について分析！

12

ページ

5. 冬休みと来年を表す漢字一文字

- ◆ 冬休みは「家」、「近」が多数も、来年は「楽」しい年になる予感？！
- ◆ ただし、「節」や「耐」と、家計にとっては厳しい年になるとの意見も！

エコノミスト前田和孝が「冬休みと来年を表す漢字一文字」について分析！

ご照会先

(株)明治安田総合研究所
経済調査部

電 話 ▶ 03-6261-7947 F A X ▶ 03-3511-3200

E メール ▶ ka3-maeda@myri.co.jp

ホームページ ▶ <https://www.myri.co.jp/>

< 調査の概要 >

(1) 調査名：「冬休みに関するアンケート調査」

(2) 調査対象：20代～70代の男女1,800人

※回答次第で調査対象者が変動するため、回答者数は設問によって同一ではありません

(3) 調査エリア：全国

(4) 調査時期：2022年11月25日（金）～11月27日（日）

(5) 調査方法：WEB アンケート調査

(6) 回答者の内訳：

（単位：人）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	150	150	150	150	150	150	900
女性	150	150	150	150	150	150	900
計	300	300	300	300	300	300	1,800

< 目 次 >

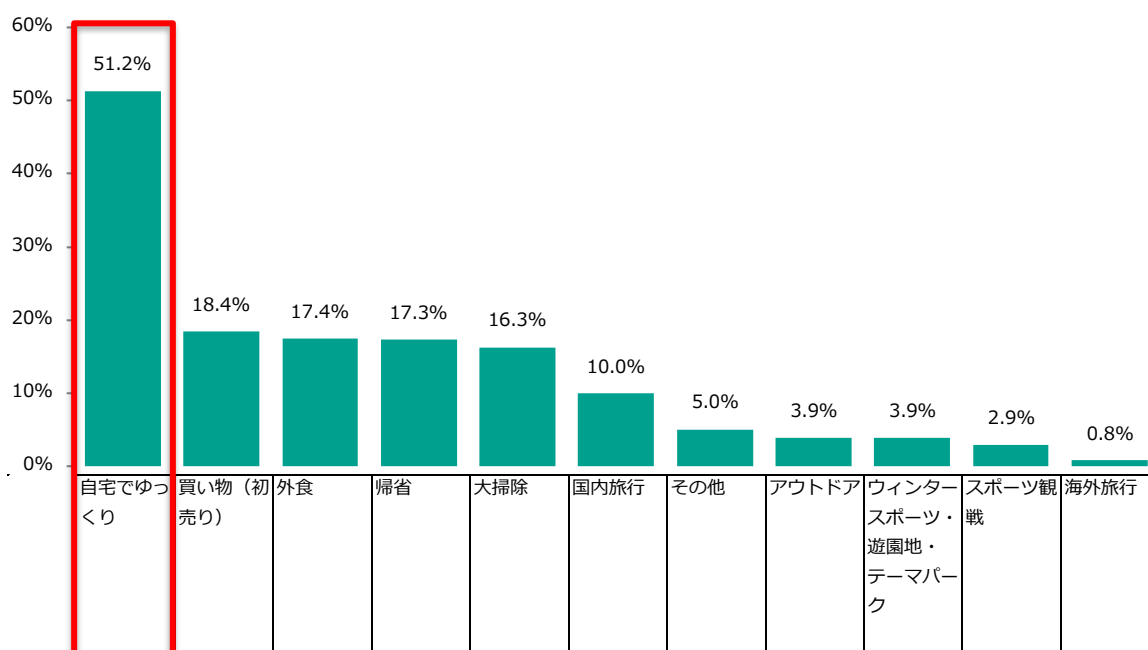
1. 冬休みの過ごし方	4 ページ
2. 冬のボーナス	7 ページ
3. 冬休みに使う金額	9 ページ
4. お年玉	10 ページ
5. 冬休みと来年を表す漢字一文字	12 ページ

1. 冬休みの過ごし方

- ◆ 今年の冬休みの日数は、平均で「8.1 日」
- ◆ ワクチン接種の進展などで外出に安心感が生まれるも、「自宅でゆっくり」過ごす派が多数！
- ◆ 行きたくても行けない？！海外旅行断念派は、円安やコロナ規制を敬遠！

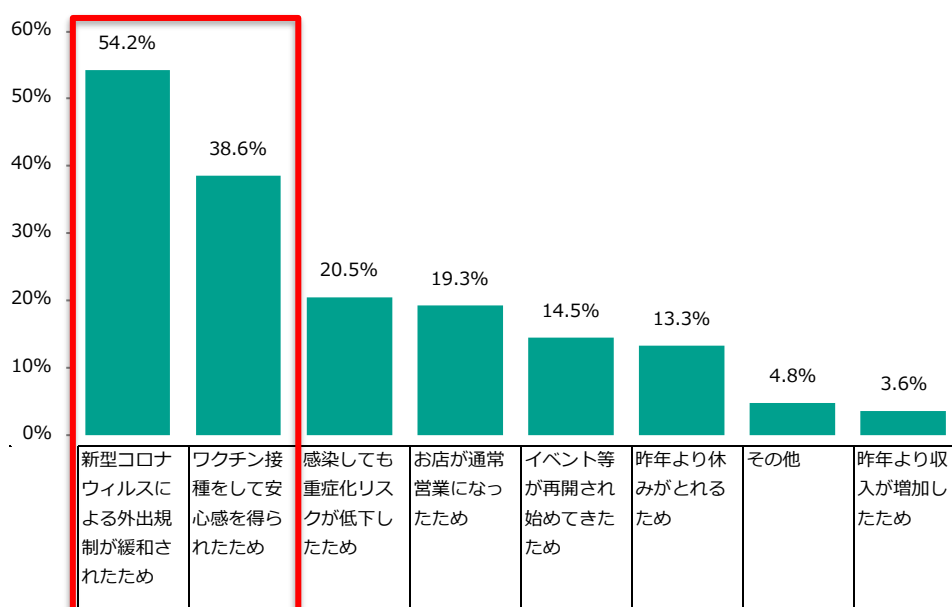
- ・今年の冬休みの日数は平均で「8.1 日」との結果でした。
- ・今年の冬休みの過ごし方で最も多かったのは、「自宅でゆっくり」で 51.2%でした。「買い物（初売り）」が 18.4%、「外食」が 17.4%とこれに続きます（図表 1▶）。

（図表 1）今年の冬休みの過ごし方（複数回答）



- ・今年の冬休みに外出する人は 44.8%、外出しない人は 55.2%となりました。昨年（外出した：40.4%、外出しなかった：59.6%）と比較して、今年外出すると答えた人が 4.4%増加する結果となりました。
- ・昨年の冬休みは外出せず、今年は外出する理由として最も多かったのは、「新型コロナウイルスによる外出規制が緩和されたため」で 54.2%でした。そのほかには、「ワクチン接種をして安心感を得られたため」が 38.6%で上位となっています（図表 2▶）。

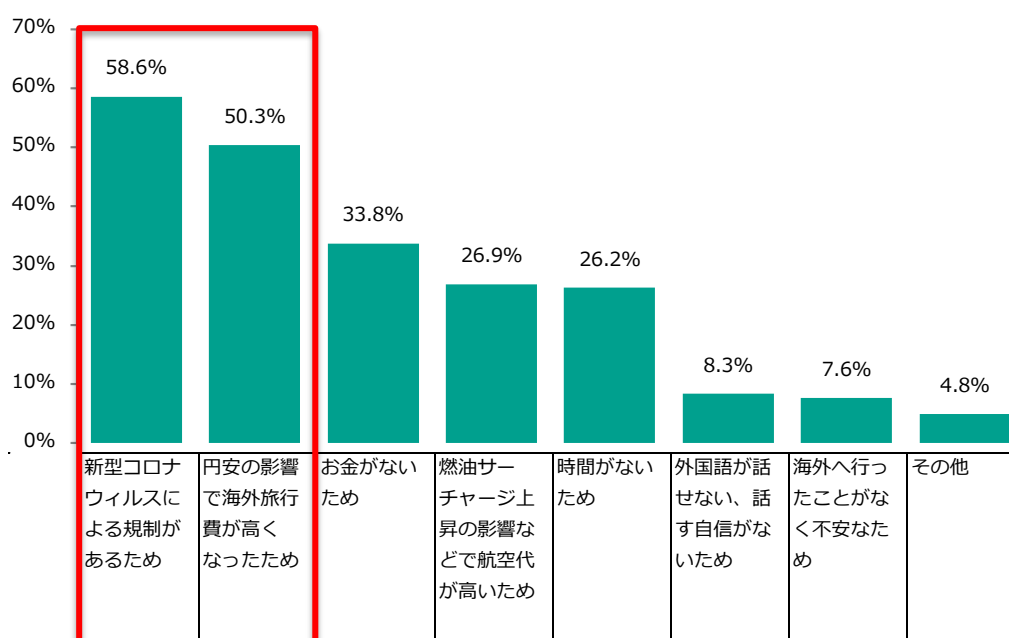
(図表 2) 昨年の冬休みは外出せず、今年は外出する理由 (複数回答)



・理想の冬休みの過ごし方で最も多かったのは、「自宅でゆっくり」で 65.9%でした。「国内旅行」が 25.4%、「外食」が 20.4%でこれに続きます。

・理想の冬休みの過ごし方を「海外旅行」(9.9%)としている人のうち、今年の冬休みに海外旅行に行かない理由を尋ねたところ、「新型コロナウィルスによる規制があるため」(58.6%)、「円安の影響で海外旅行費が高くなったため」(50.3%)との回答が 5 割を上回りました (図表 3 ▶)。

(図表 3) 理想の冬休みの過ごし方は海外旅行！
にもかかわらず、今年の冬休みに海外旅行に行かない理由
(複数回答)



エコノミスト前田和孝が「冬休みの過ごし方」について分析！

今年の冬休みは「自宅でゆっくり」過ごす人が5割以上との結果になりました。

一方、昨年の冬休みは外出せず、今年は外出する人に理由を尋ねると、「新型コロナウイルスによる外出規制が緩和されたため」や「ワクチン接種をして安心感を得られたため」といった回答が上位となりました。今年3月下旬以降、コロナ感染拡大下であっても行動制限措置が課されていないことや、ワクチン接種の進展で、外出に安心感が生まれている可能性があります。

また、理想の冬休みの過ごし方を「海外旅行」としている人に、今年の冬休みに海外旅行に行かない理由を尋ねると、「円安の影響で海外旅行費が高くなったため」との回答が50%を上回り、円安が海外旅行を躊躇させる一因になっている様子がうかがえます。

もっとも、米国景気の減速に伴い、市場ではFRB（米連邦準備制度理事会）による利上げサイクルの終了と、その後の利下げを織り込む見方が出始めています。日銀も金融緩和策の一部修正に動いたことで、今後は日米金利差が縮小するとの観測から、大きく円高が進む可能性もありえます。来年は海外旅行を検討しようとする人が増えるかもしれません。

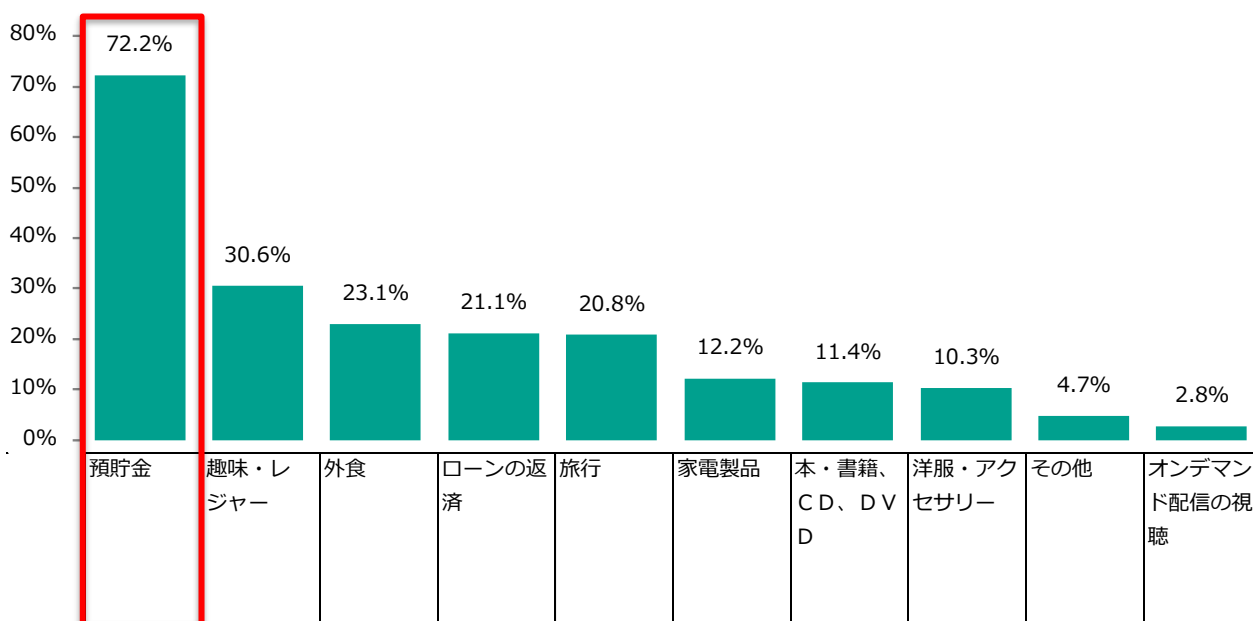


2. 冬のボーナス

- ◆ 冬のボーナスの平均金額は「594,719 円」で、9 割近くが「昨年と同程度」との結果に！
- ◆ ボーナスの使い道は、「預貯金」が約 7 割とダントツ！

- ・ 今年の冬のボーナスの平均金額は「594,719 円」でした。（パート・アルバイト、学生、専業主婦・主夫等を除く）
- ・ 今年の冬のボーナスの昨年からの変化額を尋ねると、「昨年と同程度」と答えた人が 89.3%を占めました。「増加した」人は 4.2%、「減少した」人は 6.5%でした。
- ・ ボーナスが「増加した」と回答した人の増加額の平均は「202,730 円」、「減少した」と回答した人の減少額の平均は「148,099 円」との結果でした。
- ・ ボーナスの使い道を尋ねたところ、「預貯金」が 72.2%と最も多い結果となりました。「趣味・レジャー」が 30.6%、「外食」が 23.1%でこれに続きます（図表 4▶）。

（図表 4）今年の冬のボーナスの使い道（複数回答）



エコノミスト前田和孝が「冬のボーナス」について分析！

今年の冬のボーナスの平均額は「594,719 円」で、昨年と同程度と回答した人が約 9 割を占めました。今年は冬のボーナスが昨年より増加したとの報道もありましたが、実感としてはさほど変わらないと感じる人が多いようです。

また、ボーナスの使い道を尋ねたところ、「預貯金」が 70%程度と最も多い結果となりました。ボーナスは、景気動向や企業業績によって今後増減する可能性があり、預貯金に回す人が多かったとみられます。

中長期的な個人消費の回復トレンドが続くためには、ボーナスではなく、基本給を引き上げるベースアップがカギになります。財務省の「法人企業景気予測調査」によれば、2022 年度の全産業の経常利益は前年度比 +3.0%と、増益となる見通しです。来年度の春闘では、今年度（2.07%）を上回る賃上げが期待されています。物価上昇が続くなかで、賃上げがどこまで進むかが、先行きの個人消費にとって重要になりそうです。

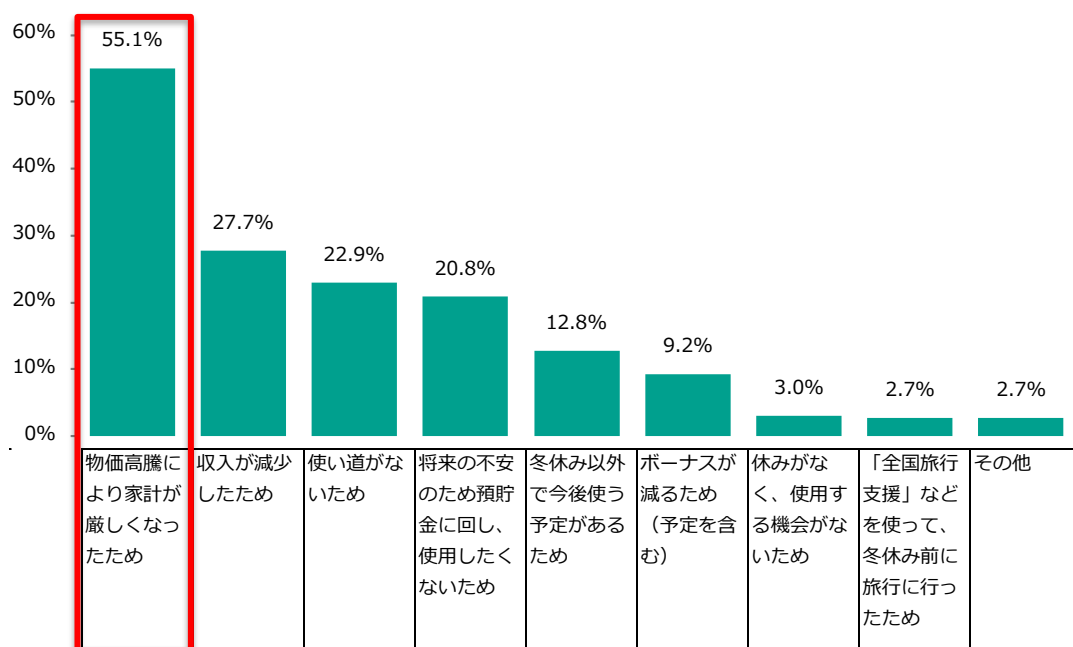


3. 冬休みに使う金額

- ◆ 冬休みに使う予定の平均金額は「40,205 円」と、昨年から大きく変わらず！
- ◆ ただし、約 2 割が昨年より冬休みに使う金額を「減らす予定」と回答。そのうち、約半数は「物価高騰により家計が厳しくなった」ことを理由に挙げる！

- ・ 今年の冬休みに使う予定の平均金額は「40,205 円」でした。
- ・ 今年の冬休みに使う金額の昨年からの変化を尋ねると、「昨年と同程度の予定」と答えた人が 73.6% を占めました。「増やす予定」の人は 7.7%、「減らす予定」の人は 18.7%との結果でした。
- ・ 昨年より冬休みに使う金額を「増やす予定」と回答した人のなかで、増やす理由として最も多かったのは「旅行に行くため」で 31.7%でした。「外出自粛中に出費が減ったため」が 30.9%、「豪華な食事に行くため」が 26.6%でこれに続きます。
- ・ 昨年より冬休みに使う金額を「減らす予定」と回答した人のなかで、減らす理由として最も多かったのは「物価高騰により家計が厳しくなったため」で 55.1%でした。「収入が減少したため」が 27.7%、「使い道がないため」が 22.9%で続きます（図表 5 ▶）。

（図表 5）今年の冬休みに使う金額を減らす理由（複数回答）



4. お年玉

- ◆ 今年渡す一人当たりの「お年玉」の平均金額は「3,858 円」で、多くの人が昨年と「変わらない予定」と回答！
- ◆ ただし、昨年より一人当たりの「お年玉」の金額を「減らす予定」と回答した人のうち、約 4 割が「物価高騰により家計が厳しくなった」ことを理由に！「お年玉」にも物価高騰の影が忍び寄る・・・

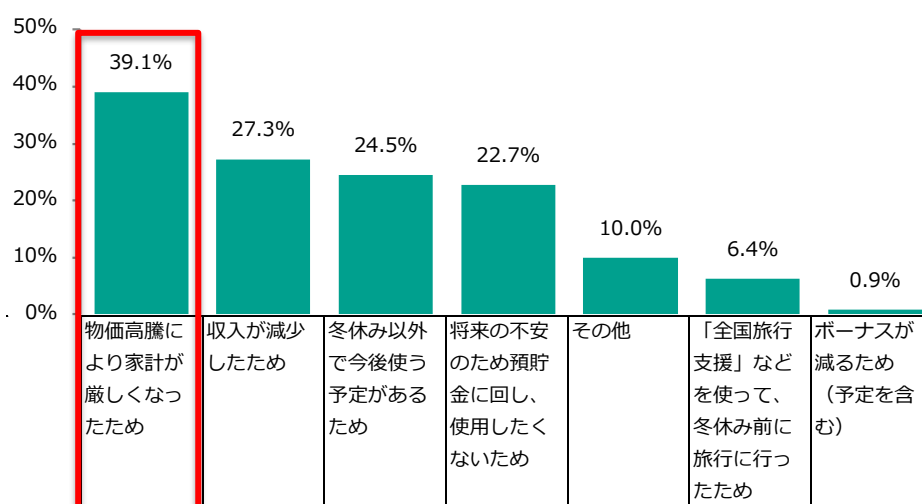
・ 今年渡す一人当たりの「お年玉」の平均金額は「3,858 円」でした。

・ 今年渡す一人当たりの「お年玉」の昨年からの変化額を尋ねると、「変わらない予定」と答えた人が 89.4%を占めました。「増やす予定」の人は 4.5%、「減らす予定」の人は 6.1%でした。

・ 昨年より一人当たりの「お年玉」の金額を「増やす予定」と回答した人のなかで、増やす理由として最も多かったのは、「その他」の 50.6%で、自由記述での回答において、子どもや孫の年齢・学年が上がるためとの意見が目立ちました。「収入が増加したため」が 17.3%、「外出自粛中に出費が減ったため」が 13.6%でこれに続きます。

・ 昨年より一人当たりの「お年玉」の金額を「減らす予定」と回答した人のなかで、減らす理由として最も多かったのは、「物価高騰により家計が厳しくなったため」で 39.1%との結果でした。「収入が減少したため」が 27.3%、「冬休み以外で今後使う予定があるため」が 24.5%でこれに続きます（図表 6 ▶）。

（図表 6）今年の一人当たりの「お年玉」の金額を減らす理由（複数回答）



エコノミスト前田和孝が「冬休みに使う金額」・「お年玉」について分析！

今年の冬休みに使う金額は「昨年と同程度の予定」と回答した人が多数との結果でした。「増やす予定」と「減らす予定」では、「減らす予定」の回答割合が多かったですが、「減らす予定」と回答した人のうち、約 55%が「物価高騰により家計が厳しくなったため」を理由に挙げています。

今年渡す一人当たりの「お年玉」の平均金額も昨年と「変わらない予定」との回答が多数で、お年玉を多く貰えると期待した人にとっては残念な結果となりました。こちらの質問でも、昨年より一人当たりの「お年玉」の金額を「減らす予定」と回答した人のなかで、「物価高騰により家計が厳しくなった」ことを理由に挙げた人が 40%近くいました。

10月の日本の消費者物価指数は、前年比で約 40 年ぶりの高い伸びとなっています。特に、これまでのエネルギーや穀物価格の上昇や円安を背景に、電気代やガソリン代、食料品といった生活必需品の価格上昇が目立っています。コロナ感染に伴う外出規制の緩和や、旅行代金の割引といった政府の観光促進事業等が一定の下支えになるものの、物価高騰が個人消費の足かせになる状況は冬休みも含め当面続きそうです。

ただ、足元のエネルギーや穀物価格は一時期に比べれば、落ち着きを取り戻しつつあります。物価は当面高い伸びが続くものの、時間の経過とともに少しずつ鈍化に向かう可能性が高く、来年後半には、個人消費が持ち直す展開も期待できそうです。

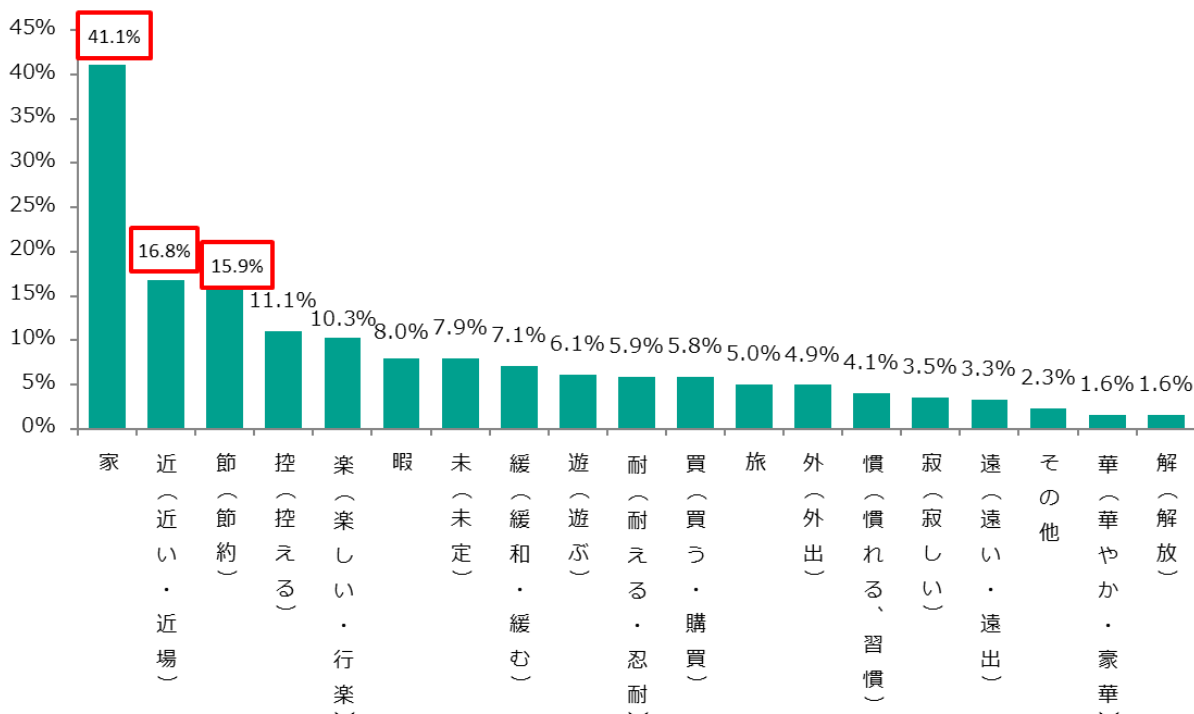


5. 冬休みと来年を表す漢字一文字

- ◆ 冬休みは「家」、「近」が多数も、来年は「楽」しい年になる予感？！
- ◆ ただし、「節」や「耐」と、家計にとっては厳しい年になるとの意見も！

・あなたの今年の冬休みの過ごし方を漢字一文字で表すと何かと尋ねたところ、「家」が41.1%で1位。「近（近い・近場）」が16.8%で2位、「節（節約）」が15.9%で3位となりました（図表7▶）。

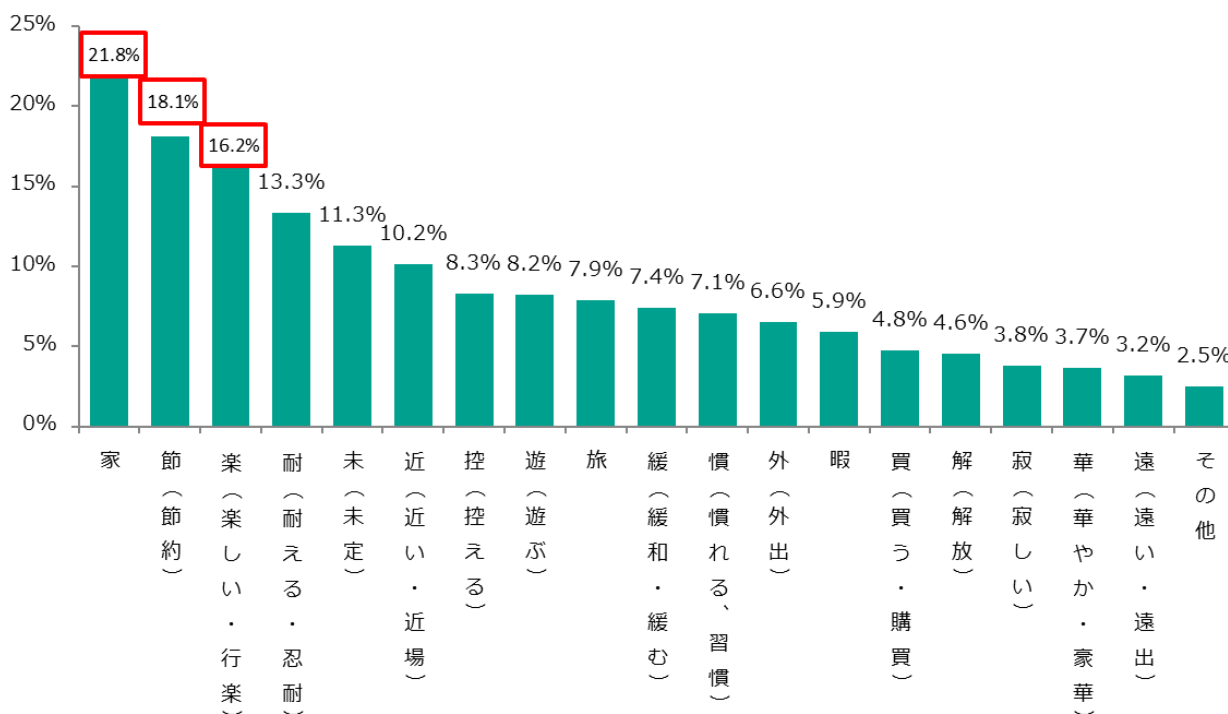
（図表7）今年の冬休みの過ごし方を表す漢字一文字（複数回答）



・来年はどんな年になりそうかを漢字一文字で表すと何かと尋ねたところ、「家」が21.8%と1位ながら、冬休みの過ごし方の回答と比べて約20%減少しました。「楽（楽しい・行楽）」が16.2%で3位となるなど、来年のイメージはやや前向きと言えます（図表8▶）。

・ただ、「節（節約）」が18.1%で2位、「耐（耐える・忍耐）」が13.3%で4位になるなど、家計にとっては厳しい年になるとの意見も多くみられます。

(図表 8) 来年はどんな年になりそうかを表す漢字一文字 (複数回答)



エコノミスト前田和孝が「冬休みと来年を表す漢字一文字」について分析！

今年の冬休みの過ごし方を表す漢字について尋ねたところ、「家」や「近 (近い・近場)」と回答した人が上位を占めました。

来年に関しては、「節 (節約)」や「耐 (耐える・忍耐)」と回答した人が一定数おり、節約ムードが引き続き残ることが示唆されています。一方で、「家」と回答した人が冬休みの過ごし方から約 20%減少したほか、「楽 (楽しい・行楽)」と回答した人が増加していることから、外出需要が拡大する可能性も示されています。今は我慢だが来年は！と前向きなイメージを持っている人が増えている可能性がうかがえます。生活必需品を中心に値上げが実施され、足元では節約志向が強まっていますが、賃金上昇や、物価が落ち着きを取り戻せば、実質所得の回復とともに、消費者マインドは前向きなものに変わっていくことも考えられます。



※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-7947